

ワークショップ

『心と形の考古学 認知考古学の実践と課題』 の開催のご案内

来る 12 月 6 日・7 日(土・日)の両日に、表記タイトルのワークショップを北海道大学にて開催いたします。当日取り扱うテーマとプログラムを以下に記しておきます。多くの意見交換ができる肩の張らない寄合になればと願っております。

ご興味のある多くの研究者、学生の方々の参加をお待ちしております。お気軽にお越し下さい。

テーマ 人類の進化過程における認知能力と造形表現の発達は、どのように相互に関連しあって物質文化環境を創りだしてきたのか、またその中でどのような適応過程がとられてきたのか。日本列島及び周辺地域の考古学データによって旧石器文化から古代国家形成期にかけての、認知と造形が織りなす物質文化環境に関する実践的研究を紹介し、認知考古学の展望を模索する。

プログラム

開場 6 日 9:00

主旨説明 6 日 9:20-9:30

第 部:それは認知考古学か メンタリティーに関する考古学研究の実践

1) 加藤博文 : 6 日 9:30-10:15 (質疑応答 10:15-10:30)

後期旧石器的世界の出現 技術と道具からみた現代型人類集団の特質

[北ユーラシアにおける中期旧石器と後期旧石器の比較から人間集団の差異、空間認識、技術運用における特質について論じる]

2) 松本直子 : 6 日 10:30-11:15 (質疑応答 11:15-11:30)

縄文のイデオロギーと物質文化

[人類の普遍的認知基盤と固有の歴史的・文化的コンテクストから縄文的世界観を解釈する]

昼食 : 11:30-13:00

3) 桜井準也 : 6 日 13:00-13:45 (質疑応答 13:45-14:00)

土器の文様区画と認知構造

[縄文土器の器面の文様帯の分割方法や施文過程を検討することにより、立体的な造形物である土器を縄文人がどのように認知しているかについて明らかにし、文様の割付や設計という概念が近代的生産物であることを示す]

4) 小杉 康 : 6 日 14:00-14:45 (質疑応答 14:45-15:00)

土器造形の発達とカテゴリー操作

[1 万年数千年前の日本列島における土器の誕生から約 1 万年間にわたる土器製作の発達過程をトレースし、具象的造形表現の獲得過程の意味を考察する。]

コーヒー・ブレイク : 15:00-15:15

5) 中園 聡 : 6 日 15:15-16:00 (質疑応答 16:00-16:15)

弥生土器をめぐる認知考古学的解釈の試み

[九州を中心とした西日本の弥生土器の持続的特性 / 多様な器種を生み出す形態生成構造 / 弥生土器の製作者・使用者の土器のカテゴリー化 / 考古学者の土器観察時の認知特性]

6) 金田明大 : 6 日 16:15-17:00 (質疑応答 17:00-17:15)

古代における土器造形と都城の空間認識

[宮部の土器様式の模倣行為に関する 1 題と古代都城を中心とした絶対空間と相対空間の比較の試みに関する 1 題]

~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ *

7) 小林正史 : 7 日 9:15-10:00 (質疑応答 10:00-10:15)

土器の文様は何故変わるのか - カリंगा・モデル -

[フィリピン出土の土器作り民族間において土器スタイルが変わるプロセスを観察した結果、集団間の交流度に加えて、意匠や土器の使い勝手がいかに影響しているかを検討する。]

コーヒー・ブレイク : 10:15-10:30

~ ~ ~ ~ 第 部:討論 7 日 10:30-12:00 ~ ~ ~ ~

昼食 : 12:00-13:30

第 部:それでは認知考古学は 課題と展望

(1) 認知考古学、登場の経緯 (松本直子) 7 日 13:30-14:00(質疑応答 14:00-14:10)

(2) ポスト・プロセス考古学からの提言(深沢百合子) 7 日 14:10-14:40(質疑応答 14:40-14:50)

(3) プロセス考古学からの提言 (小林正史) 7 日 14:50-15:20(質疑応答 15:20-15:30)

コーヒー・ブレイク : 15:30-15:40

~ ~ ~ ~ 第 部:討論 7 日 15:40-16:20 ~ ~ ~ ~

閉会 7 日 16:30

会場案内

北海道大学学術交流会館・第 4 会議室

(JR 札幌駅下車徒歩 10 分・北大正門脇)

*

問い合わせ

北海道大学大学院文学研究科北方文化論講座

小杉研究室 (011-706-4000)